学校番号	216

平成 31 年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	書道Ⅲ　（教育出版）						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

■書道Ⅰ・Ⅱで学んだ大筆や小筆の用筆を基礎にして様々な書体・書風で色々なサイズの作品制作を中心に学習していきましょう。
■漢字・仮名・漢字仮名交じり文の範疇にとらわれることなく絵手紙や篆刻等も取り入れ、表具まですることによって物を作る歓びを味わいましょう。
■具体的には自宅に飾れる小作品を作り、生活に密着した作品制作とはどんなものか考えたり、枚方・北河内地区高校生書道展や文化祭および１月の大阪府高等学校書道展に向けての大作制作などをすることにより展示効果も考えましょう。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して，書を愛好する心情を育てるとともに，感性を豊かにし，書写能力を高め，表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a. 書への関心・意欲・態度	b. 書表現の構想と工夫	c. 創造的な書表現の技能	d. 鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	・観察 ・レポート ・ワークシート ・ポートフォリオ	・観察 ・レポート ・ワークシート ・ポートフォリオ ・提出作品	・観察 ・レポート ・ワークシート ・ポートフォリオ ・提出作品	・観察 ・レポート ・ワークシート ・ポートフォリオ ・提出作品
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

月	単元･題材名	学習内容･活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		

4 5	自分の好きな古典作品を選び、それらを半紙に臨書しよう	・今まで2年間学習してきた書道で習ったもの、習わなかったものを含め、さまざまな法帖を見せて自分のやってみたい古典を見つけさせる。 ・それらを徹底的に臨書することにより、自分の技術を磨き、自分の個性を発見させ作品制作に生かせるようにする。 ・篆書、隷書、楷書、行書、草書、かな等の古典作品の中から自分が一番興味のあるものを選ばせ、その技術を学ばせる。	 ○ ○	○	○ ○	○ ○ ○	a. じっくり時間をかけてさまざまな古典を鑑賞している。 b. それぞれの古典の持つ味わいを享受し、そっくりに臨書することにより技術を学ぼうとしている。 c. 展示場所によっての作品効果を考えることが出来たか。 d.時間をかけて言葉を考えることが出来たか	・観察 ・レポート ・ワークシート ・ポートフォリオ ・提出作品
6 7	半切1/3に2文字で臨書してみよう 半切や半截サイズに臨書してみよう 作品にする言葉を考えて、小作品を作ろう。 表具をしよう	・小品を作ることにより身近に飾れるものを考えさせる。 ・大作を作ることにより展示場所によって表現が違ってくることに気づかせる。 ・半紙1/2サイズの作品作りをさせる。 ・自分の書いた作品を裏打ちして、パネル仕立てにして鑑賞できる形にする。そしてその作品を文化祭に出品する。	○	○	○	○	a.構成に関して色々考えることが出来たか 説明の通り裏打ちが出来たか b.作品と額の調和を考えることが出来たか c：用具用材の使用法を身につけ丁寧な作業をしている。 d：見せるための効果的な展示方法を味わっている。	・観察 ・レポート ・ワークシート ・ポートフォリオ ・提出作品
8 9	漢字一文字作品を作ろう	・篆書を中心とした半切1/3サイズの作品を作る。 ・書道字典・五体字類等を使用し、原稿作成に時間をかけて墨色に注意しながら作品制作する。	 ○	○	 ○	○	a：文字調べを通じて五体に興味を持った上で筆意や文字造形について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている b：原稿作成において筆の弾力を活かし、硬筆等にも応用できる技法を身に付け表している。 c：臨書の授業で身に付けた基礎的な技能を生かして表現している。 d：墨の特性を理解し墨色を考え、そのよさや美しさを味わっている。	・観察 ・レポート ・ワークシート ・ポートフォリオ ・提出作品
10 11	半截作品を作ろう 表具をしよう	・全紙1/2の半截正方形に四文字の漢字作品を制作する ・書道字典・五体字類等を使用し、原稿作成に時間をかけて墨色に注意しながら作品制作する。 ・自分の書いた作品を裏打ちして、自分でベニヤや角材を使用してパネルを作り、マット張りから仕上げまで行い、鑑賞できる形にする。その後、その作品を天王寺美術館で行われる大阪府高等学校書道展に出品する。 ・料紙の観察。	○	 ○	 ○ ○	 ○	a：文字調べを通じて五体に興味を持った上で筆意や文字造形について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている b:刻字における分間布白を理解して、表現を工夫し、潤筆や渇筆を理解した上で効果的に表現する。 c：原稿作成において筆の弾力を活かし、硬筆等にも応用できる技法を身に付け表している。また彫刻刀の使い方を十分理解し、切れ味を出している。 d：木材の特性を理解し色味の違う部分を考え、そのよさや美しさを味わっている。	・観察 ・レポート ・ワークシート ・ポートフォリオ ・提出作品

12	紙を染めてみよう 自分で染めた葉書に年賀状を書いてみよう	・さまざまな料紙の文様、作成技法の理解 葉書を染めてみる ・マーブリング、浸け染め、刷毛染め、具引き、ドーサ引き等。雲母・金銀箔等を使用する。 ・前単元で作成した葉書に年賀状を書く ・小筆で連綿をしてみる。 ・篆刻で作成した印を押印する。		○		○	a: 身の回りにあるさまざまな書式について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている b:年賀状などの基本的な表現方法を理解し、自らの意図に基づいて工夫している。 c:基礎的・基本的な連綿や散らし書きの技法を身に付け表している。 d:暮らしの中に書を生かすことを理解し、そのよさや美しさを味わっている。	・観察 ・提出作品
1 2	ステンドグラス風の作品を作ってみよう	・ステンドホビーを使用してガラスに甲骨文や篆書などを書き、色を流し込み身近に飾り使用できる作品を作る。 ・1月末の大阪市立美術館における高校展に展示する。	○ ○	○	○ ○	○	a:身の回りにある書について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている b:楷書と行書それぞれのよさを感じ取り、作品の意図を明確にし、表現を工夫している。 c: 使用目的に応じた表現の技能を身に付け表している。 d: 互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	・観察 ・レポート ・ワークシート ・ポートフォリオ ・提出作品

※ 表中の観点について a…書への関心・意欲・態度 b…書表現の構想と工夫
c…創造的な書表現の技能 d…鑑賞の能力

※原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。